長野県　長野市消防局

長野県　長野市消防局
消防局長　安川　哲生

歴史文化と自然豊かな住みやすい長野

長野市は長野県の北部にあり、周りを全て山に囲まれた善光寺盆地の中心に位置しています。平安の昔から「三国一の霊場」国宝善光寺の門前町として栄え、平成11年には中核市となるまでに発展をとげてきました。本市の中央部には千曲川（信濃川）が悠然と流れ、その南には武田・上杉両軍の決戦場となった川中島古戦場、真田十勇士で知られる真田十万石の城下町、松代まで広がり、数多くの歴史文化にあふれた都市であります。また、晴れた日には北アルプス、戸隠連峰の雄大な山並みのパノラマが手に取るように見られる風光明媚な自然にも恵まれた市です。平成９年には市制施行100周年を迎え、記念事業として、平成10年２月には平和の祭典「第18回オリンピック冬季競技大会長野」、同年３月には「第７回パラリンピック冬季競技大会長野」が開催され、景観に配慮し自然に融合した国内最大級の最新競技施設が複数建設されました。それらの施設は、現在も冬季競技には国内外の大会に使用され世界的にも有名となりました。

冬季オリンピックが開催されたホワイトリンクから市東部を望む

「やすらぎが広がる安全・安心」のまちづくりを目指して

長野市消防局は、現在近隣の３町２村の消防事務を受託。防災拠点となる消防局庁舎を平成16年に新築し、免震構造、高機能消防指令・情報システムを稼動させ、総面積1,124.53㎢、人口約42万人の生命、身体、財産を、１本部（４課）、５署、11分署、１出張所で組織された消防職員456名と消防団員3,180名で「やすらぎが広がる安全・安心」をスローガンに掲げ一丸となって防災の任に取り組んでいます。

本市における災害は、古くは1847年の善光寺地震から昭和16年マグニチュード6.2、死者５人、傷者18人が発生した長沼地震、昭和40年から45年にかけて有感回数６万2,821回を記録した松代群発地震などが発生しています。昭和60年には地附山南斜面で大規模な地滑り災害が発生し、老人ホームのお年寄り26人が犠牲になり、住宅の埋没・倒壊などの被害がありました。また、地形的にも山間地が多く千曲川、犀川などの大河川が流れているため、台風、集中豪雨による大規模な水害は過去数多く記録し、その都度大きな犠牲や損害が発生しております。このことは「常に万全の備えをせよ」「危機管理意識を忘れるな」との教訓と受けとめ、更なる防災力の向上に努めているところです。

国宝善光寺〔文化財防火デー〕

また、地域の防災力向上のため、市事業の一環として「元気なまちづくり市政出前講座」を行っています。地域の皆さんが集う所に消防が積極的に出向して、防火・防災講話を行い、実災害に即した訓練、図上訓練の導入などの働きかけを行うとともに、年々増加の一途を辿る救急件数をかんがみ応急手当の普及啓発活動も行っています。更には自主防災組織の自立を目指すと共に地域に見合った連合協議会の結成を進め、隣保共助体制の確立をゆるぎないものにするべく、長野市全体の防災力の向上を目指し消防行政事業を進めています。

さらに、救急需要の大幅な増加に対しましては、民間組織の活用のため、市民に応急手当のできる患者搬送乗務員に対する講習、事業者認定を行い現在５社が講習を修了し認定を受け営業しており、病院、福祉施設を中心に救急車の適正要請の広報活動を行っています。

民間救急

本市の今後取り組むべき事業として「広域再編」、消防無線のデジタル化、指令システムの統合、消防力の整備指針に沿った組織改革など大きな事業課題に直面しています。まさに消防組織発足以来の激動期に入ったと思っています。

しかしながら、消防の礎は「人」でありますので、いかにＩＴ化が進み、最新の資機材が入ろうとも現場で扱うのは消防士なのです。今後、いかなる変化があろうとも我々の使命である「地域住民の生命、身体、財産を守る」を常に第一に考え、消防の任に消防職、団員一丸となって邁進したいと考えています。